

2013年度 センター試験 地学 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：5題	解答数：30問		
難易度の変化（対昨年）	難化	やや難化	変化なし	やや易化 易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし	減少	
出題分野の変化	あり	なし		
出題形式の変化	あり	なし		
新傾向の問題	あり	なし		

総評

1. 従来通り、大問1題に1つの分野が対応している出題である。解答数も昨年と同じ30問であった。
2. 難易度はおおむね標準的であった。
3. 各大問の中の出題テーマは、昨年と同じでそれぞれA、Bの2つずつであった。
4. 今年も昨年同様、グラフや模式図を用いて考察させる問題が出題された。
5. また、今年も計算問題が出題されたが、昨年よりもやや易しくなった。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	固体地球 A - 地球の鉛直構造 B - 地殻とアイソスタシー	20点	Aは地球の層状構造を、固体地球と大気圏とにわたって問う問題である。 Bではアイソスタシーに関する計算問題が出題された。地球表面に近い地下構造とその性質は昨年も出題されている。
第2問	岩石・鉱物 A - 造山帯・火成岩・変成岩 B - 火山噴火	20点	Aは地質断面図から火成岩の形成順序を判断させたり、スケッチにもとづいて岩石の種類を判定させる問題である。昨年同様、図を用いた出題であった。 Bは火山噴火の基礎知識を問う問題である。
第3問	地質・地史 A - 地質図 B - 地球の歴史	20点	Aは比較的単純な地質図をもとに、走向傾斜、地質断面図、地質構造など地質学の基本的な概念を考察させる問題であった。 Bは生命をキーワードにすえた地球の歴史に関する問題である。
第4問	大気・海洋 A - 低気圧 B - 海水	20点	Aは温帯低気圧と熱帯低気圧に関する基礎知識を問う標準的なレベルの問題。温暖前線と寒冷前線の構造と雲の種類を問う問題は今までもよく出題されている。 Bは海水の塩類の組成や塩分の分布に関する標準的なレベルの問題。問題に図は出ていないが、教科書に載っている図を理解していることが前提で出題されている。
第5問	天文 A - 恒星の諸量とHR図 B - 宇宙の歴史	20点	Aは恒星の進化、恒星の種類、恒星の諸量（半径、質量、表面温度など）をHR図を用いて考察する問題であった。 Bは宇宙の膨張、宇宙における重元素の合成に関する一般知識を問う問題である。